

大阪芸術大学 33号館



外観

「大阪芸術大学」では、2005(平成17)年に新設されたキャラクター造形学科の校舎を建設。理事長の「夢のある空間で、ワクワクしながら創作してほしい」という思いが、ユニークなお城のデザインとして結実した。



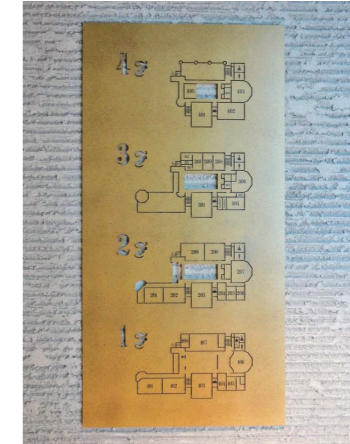
ポーチ

ドイツのノイシュヴァンシュタイン城を参考に、目指したのはどこにもないお城。建材や装飾も細部までこだわり、西洋の城と現代の学校建築を融合したデザインとなっている。



1F ホール

エントランスを入ると迎え入れるのは、ヨーロッパの教会を思い起こさせる内装が施された、1Fから4Fまでの吹抜ホール。各階ホールまわりに教室が配置されている。



1F 案内板

ホールに掲示されている真鍮塗装の案内板。こだわりの意匠の一端として、吹き抜けやバルコニー部分は切り抜いたデザインとなっている。



1F トイレ入口

トイレの入口は、手前から男性トイレ、バリアフリートイレ、女性トイレを配置。それぞれの入口にサインを掲示。また、車いす使用者に配慮してバリアフリートイレ前の空間を広く確保している。



1F 男性トイレ
洗面コーナー

お城をイメージして、デザインした洗面コーナー。建物のイメージに調和するように、鏡をはじめとする設備仕様を選定し、壁面とブースは時間を感ずる素材で統一している。



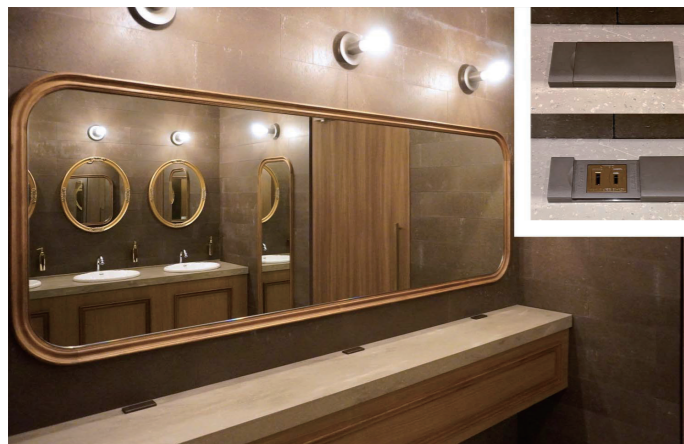
1F 男性トイレ
小便器コーナー

シンプルなデザインと節水性を両立した壁掛型の自動洗浄小便器を採用。使用毎の洗浄に加え、定期的に排水管を洗浄するインターバル洗浄機能を搭載している。1Fは来校者の利用も考慮し、1ヶ所手すりを設置している。



1F 女性トイレ
洗面コーナー

優美な雰囲気の洗面器コーナー。大人数の利用を想定し、洗面器のまわりにゆとりを設け、ストレスのない使い勝手に設計。さらに、横幅の広い全身鏡でゆったりと身だしなみをチェックすることができる。



1F 女性トイレ
スタイリングコーナー

洗面コーナーの向かいに位置するスタイリングコーナー。身だしなみ配慮として、ヘアアイロンなどを使用できるように、カウンター上部に電源プラグを設けている。



1F 女性トイレ
大便器ブース



便座はウォッシュレットPを採用し、荷物配慮としてライニングとフックをブース内に設けている。また、各ブース扉に真鍮細工のような「WC」の表記を施すなど、細部の装飾までこだわっている。



1F バリアフリートイレ

車いす使用者やおストメイトに配慮し、汚物流しを備えたコンパクト・バリアフリートイレパックを採用。男性・女性トイレの内装イメージとは違った、シンプルで明るい空間となっている。



2F トイレ入口

トイレの入口は、手前に男性トイレ、奥に女性トイレを配置。それぞれの入口には、突き出しタイプのピクトサインと性別表記のサインを掲示している。

大阪芸術大学 33号館



2F 男性トイレ



身だしなみ配慮として全身鏡を設置。壁面とブースは時間を感じる素材で統一し、壁材は均質なテクスチャーではなく深みのある素材がイメージにマッチすると考え、リサイクル材を利用したスレート材を採用している。



2F 女性トイレ
洗面コーナー

洗面コーナーの水栓は、衛生面に配慮し自動水栓を採用。そのほかのインテリア素材などは、お城のイメージにあわせるため外国製品も含めて選定している。



2F 女性トイレ
スタイリングコーナー

2Fのスタイリングコーナーは、コーナーの空間を活用して広く設置。窓とブラケットライトにより、時間の流れを感じる空間の中でも、明るいコーナーとなっている。



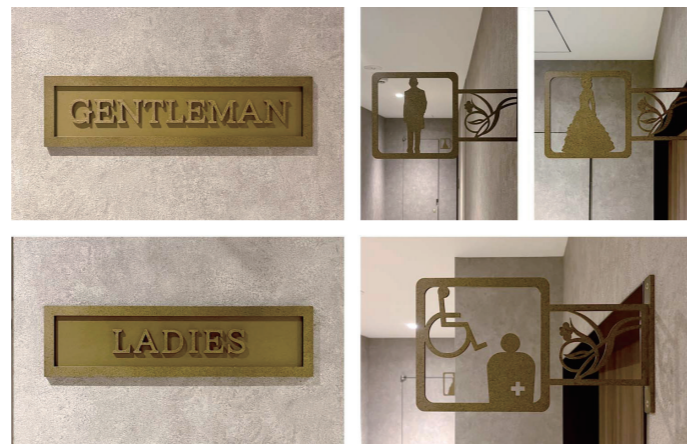
2F 廊下
手洗いコーナー

廊下に配置された手洗いコーナーは、手洗だけでなく学生同士が会話できるコミュニケーションスペースにもなるように、荷物への配慮としてカウンターを設置。さらに、出会いが生まれるよう掲示板を隣接させている。



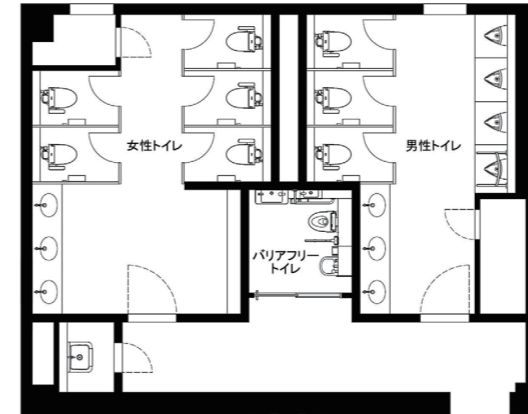
4F 廊下
手洗いコーナー

各実習室に設ける手洗いコーナーを、共用部である廊下に設置。その理由には、学生や研究員同志の交流が生まれる場となるようにとの配慮がある。



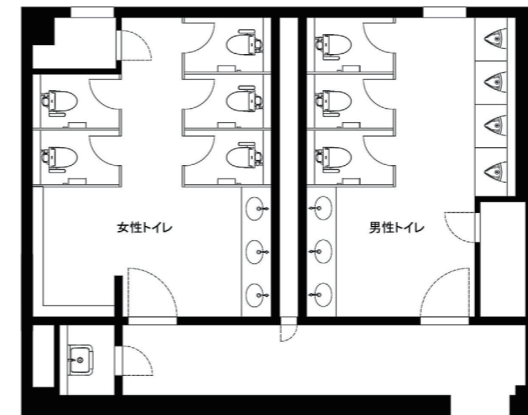
トイレサイン

トイレサインもオリジナル。突き出しピクトサインは男性トイレ、女性トイレ、バリアフリートイレに掲示。性別表記の「GENTLEMEN」と「LADIES」は男性トイレ・女性トイレの入口の壁面に掲示している。



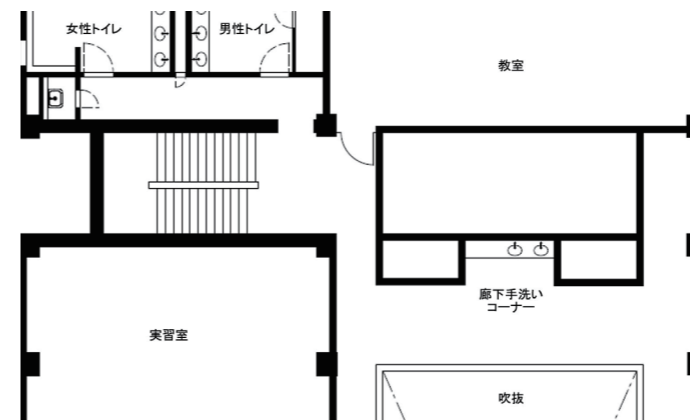
1Fトイレ図面

男性・女性トイレの間に配置されたバリアフリートイレの前は、車いす使用者に配慮してスペースを広く取っている。



2Fトイレ図面

トイレレイアウトは、男性・女性トイレ共に洗面空間と用足し空間を明確に分け、利用者の使いやすい動線を考慮した空間となっている。また、女性トイレには広々としたスタイリングコーナーが設けられている。



2F全体図

トイレとは別に、共用部である廊下に手洗いコーナーを設置。荷物カウンターを設け、コミュニケーションスペースとしての利用に配慮している。

水まわりの特長

建物の特徴

関西屈指の総合芸術大学である「大阪芸術大学」。33号館は、2005(平成17)年に新設されたキャラクター造形学科の学生が主に利用する校舎。キャラクター造形学科は、漫画、アニメ、ゲーム、フィギュアアーツの4コースに分かれており「魅力的なキャラクターを創り出す」ことを学ぶ。キャラクター造形学科の校舎を建設するにあたり定められたのは、学生の想像力・発想力を養い、日常からインスピレーションを得られるようにという思い。ドイツのノイシュヴァンシュタイン城などを参考に、内装も細部までこだわり、西洋の城と現代の学校建築を融合した新校舎が完成した。キャンパスにあってもユニークな存在感を放ち、校舎内のインテリア素材や什器なども懐かしさを感じる素材を集め、採用している。

水まわりの特長

トイレ空間は単に用足しとしての空間のみでなく、建物全体の一部として「楽しさ」や「居心地」の要素を組み込んで空間を設計。トイレ内の器具や装飾関係もお城をイメージしたデザインを選定。大人数での利用も想定し、洗面まわりにゆとりを設け、ストレスのない使い勝手になっている。さらに、女性トイレにはスタイリングコーナーを設け、身だしなみ配慮として、ヘアアイロンなどを使用できるようにカウンター上部に電源プラグを設けている。また、廊下に設置された手洗いコーナーには、荷物への配慮としてのカウンターを設置し、さらに掲示板を隣接させ、学生たちの出会いのきっかけや会話ができるコミュニケーションスペースにもなるように配慮。新校舎のコンセプトを体現するトイレが実現した。

建築概要

名称	大阪芸術大学 33号館
所在地	大阪府南河内郡河南町東山469
施主	学校法人 塚本学院
設計	大成建設株式会社
施工	五建工業株式会社
竣工年月	2021年11月
敷地面積	249,718.70㎡
建築面積	1,537.93㎡
延床面積	4,646.92㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上4階、塔屋1階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュバルブ式:CFS494NNNS
ウォシュレットPS(温風乾燥付きエコリモコン):TCF555*AUPR系
ウォシュレットP:TCF58*系
自動洗浄小便器:UFS900R
小便器用手すり:T112CU22
台付自動水栓:TENA12C
コンパクトバリアフリートイレパック:UADAK21L2A1ASD1BA